

## 財政収支(2017年1-8月)

(1) 2017年1-8月における歳入は前年同期比10.9%増。法人税や付加価値税の伸びが大きく、税収は15.2%の増加となった。

(2) 歳出面では、経常移転が前年同期比26.4%増加するなど、歳出全体では19.3%の増加となった。

(3) 財政収支は252億リラの赤字となり前年同期から大幅のマイナス。プライマリーバランスは67.8%減少し、130億リラの黒字。

データ:財務省 単位:百万リラ

歳入・歳出内訳	2016年(A)	2017年(B)	増加率 ((B-A)/A)
歳入(a)	368,409	408,652	10.9%
税収	298,090	343,511	15.2%
所得税	62,669	70,738	12.9%
法人税	30,800	39,255	27.5%
付加価値税(国内及び輸入)	82,100	95,462	16.3%
特別消費税	76,220	85,964	12.8%
その他税収	46,301	52,092	12.5%
税外収入等	70,319	65,141	▲7.4%
歳出(b)	363,539	433,836	19.3%
人件費	100,960	108,750	7.7%
物品及びサービスの購入	30,087	36,489	21.3%
経常移転	145,474	183,863	26.4%
資本支出	23,689	33,337	40.7%
支払利子(c)	35,437	38,179	7.7%
その他歳出	27,892	33,218	19.1%
財政収支(a-b)	4,870	▲25,184	▲617.1%
基礎的財政収支(a-(b-c))	40,307	12,994	▲67.8%

## 経常収支(2017年1-7月)

(1) 2017年1-7月の経常収支は、前年同期比20.8%減少し、260億ドルの赤字。

(2) 貿易収支は前年同期比23.4%の減少、旅行収支は同19.8%の増加。

データ:中央銀行 単位:百万ドル

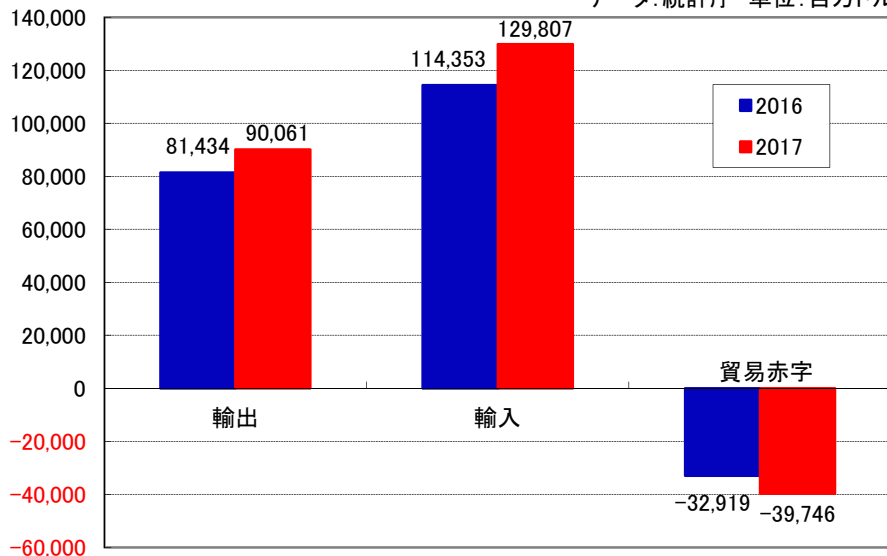
内訳	2016年(A)	2017年(B)	増加率 ((B-A)/A)
経常収支	▲21,485	▲25,958	▲20.8%
貿易収支(物品)	▲24,095	▲29,725	▲23.4%
サービス収支	6,792	8,561	26.0%
旅行収支	6,332	7,586	19.8%
その他サービス収支	460	975	112.0%
第1次所得収支	▲5,150	▲6,088	▲18.2%
第2次所得収支	968	1,294	33.7%
労働者送金	304	269	▲11.5%
その他第2次所得収支	664	1,025	54.4%
資本移転等収支	26	9	▲65.4%
金融収支	▲17,641	▲29,482	▲67.1%
直接投資	▲4,461	▲4,260	4.5%
証券投資	▲9,840	▲18,015	▲83.1%
その他投資	▲10,113	▲2,408	76.2%
外貨準備	6,773	▲4,799	▲170.9%
誤差脱漏	3,818	▲3,533	▲192.5%

## 貿易収支(2017年1-7月)

(1) 2017年1-7月の輸出額は901億ドル(前年比10.6%増)、輸入額は1,298億ドル(同13.5%増)となり、この結果、貿易収支は397億ドルの赤字(同20.7%減)となった。

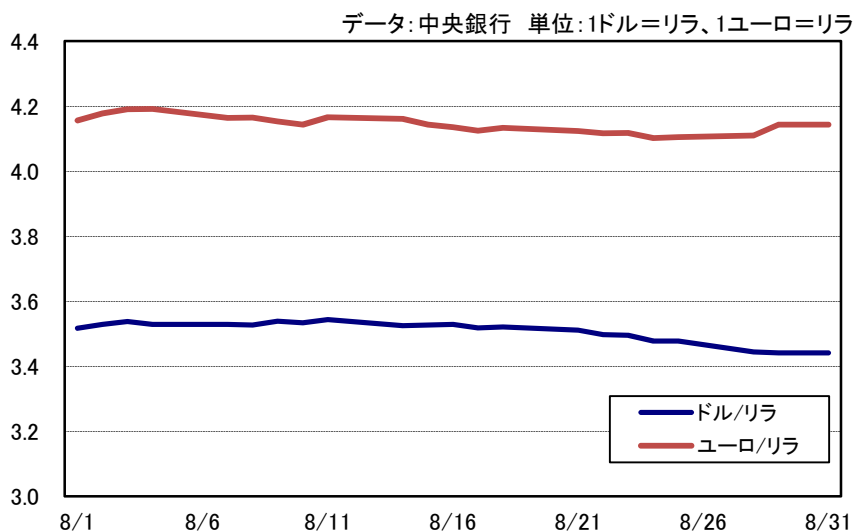
(2) 2017年1-7月の輸出額におけるEU向け輸出の占める割合は46.3%(前年48.6%)、輸入額におけるEU向け輸入の占める割合は35.5%(同39.3%)となっている。

データ:統計庁 単位:百万ドル



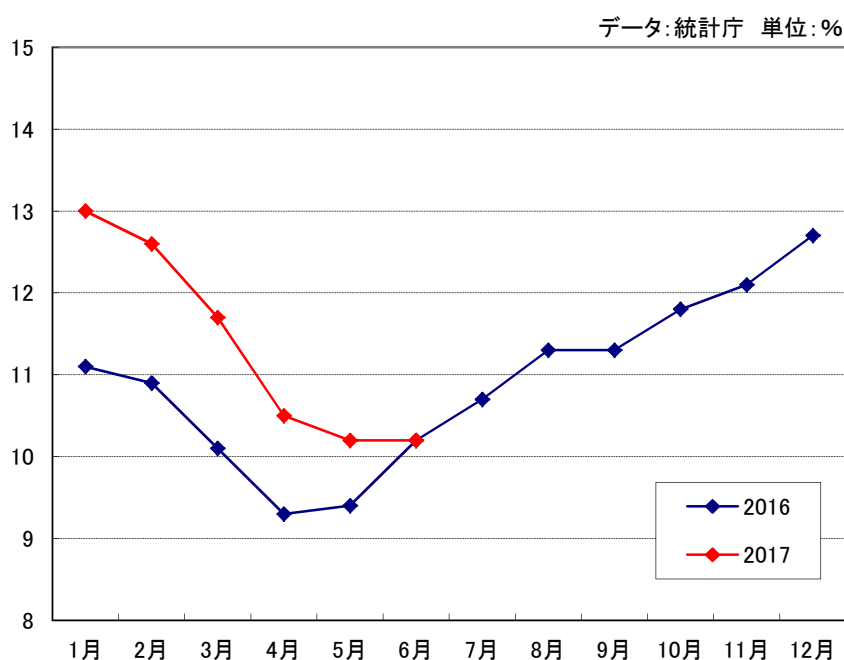
## 為替(8月)

(1)8月のドル・リラ相場は、月末にかけてリラが買われたものの、月を通して小幅な動き。最終的には、1ドル=3.44リラとなった。  
 (2)ユーロ・リラ相場は引き続き、ユーロが買われ、1ユーロ=4.11リラを超える水準を維持し、1ユーロ=4.14リラで越月した。



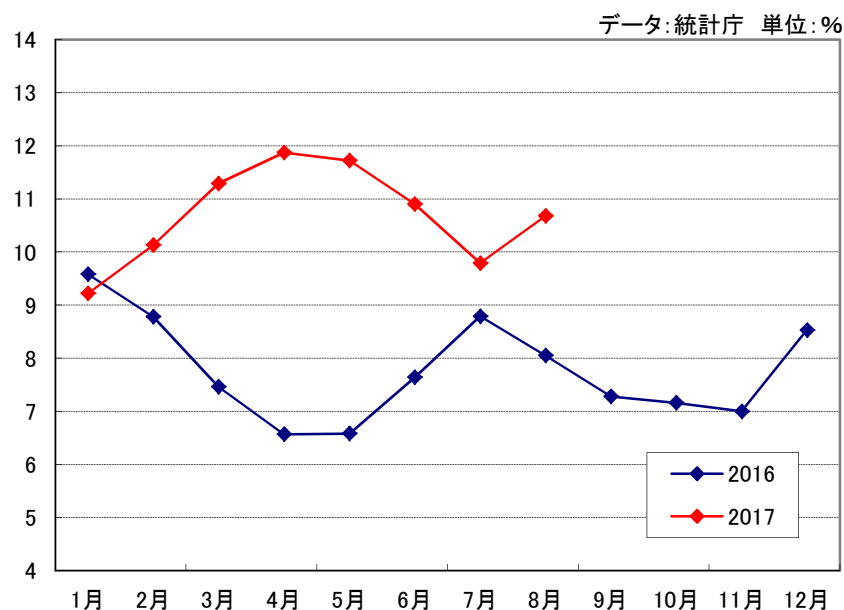
## 失業率(6月)

(1)2017年6月期の失業率は、10.2%。前年同期、前月から変わらず。  
 (2)労働力人口は3,195万人、就労者数は2,870万人、失業者数は325万人。  
 (3)男性の失業率は8.6%、女性は13.5%。若年層(15-24歳)の失業率は20.6%となっている。



## 物価上昇率(8月)

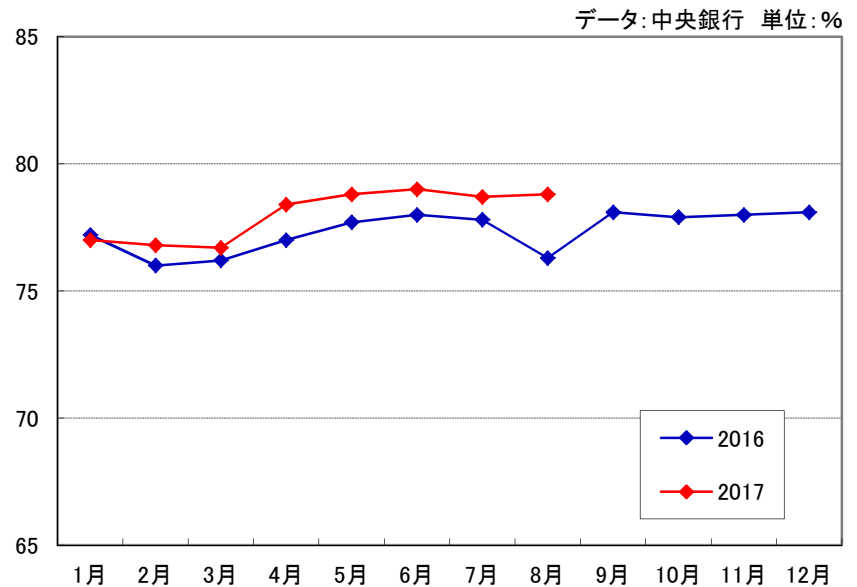
(1)2017年8月の消費者物価は前月から0.52%の上昇。年間では10.68%の上昇。  
 (2)分野別に見ると、前月と比べて最も上昇したのは教育で2.79%。年間で最も上昇したのは運輸で17.38%。  
 (3)本年末の中銀見通しは8.7%。  
 (4)国内生産者物価指数は前月から0.85%上昇し、年間で16.34%の上昇となった。



## 設備稼働率(8月)

(1) 2017年8月の設備稼働率は78.8%となり、前月から0.1ポイントの上昇。前年同月からは2.5ポイントの上昇となった。

(2) 製造業の分野別では、自動車、トレーラー及びセミトレーラー(85.4%)が最も稼働率が高く、革及び革関連製品(59.3%)が最も低い稼働率であった。

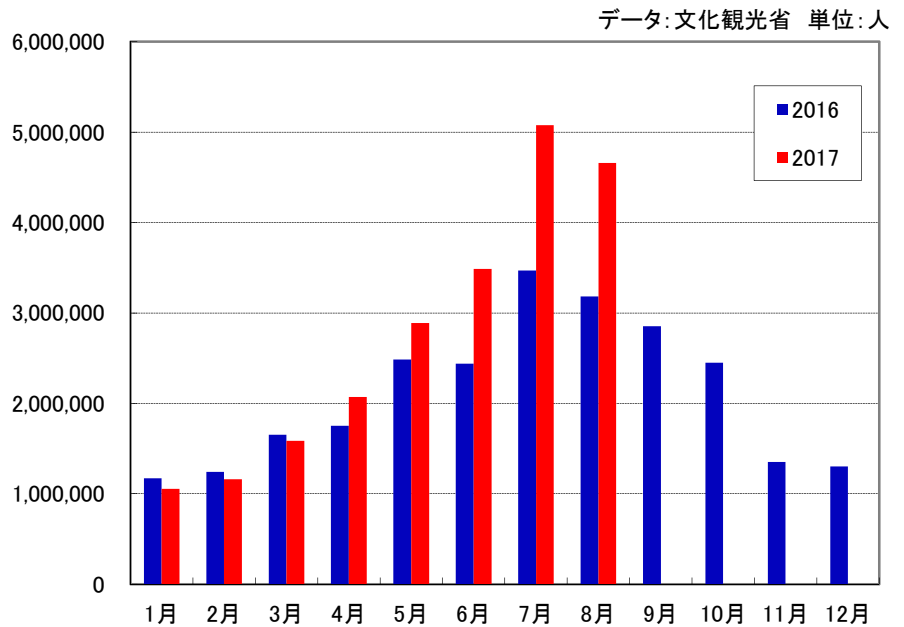


## 旅行者数(8月)

(1) 2017年8月にトルコを訪れた旅行者は466万人であり、前年同月比46.4%増となった。

(2) 旅行者数を国別に見るとロシアからの旅行者数が最も多く80.6万人で全体の17.3%を占める。以下、ドイツ(57.3万人)、イラン(29.9万人)となっている。

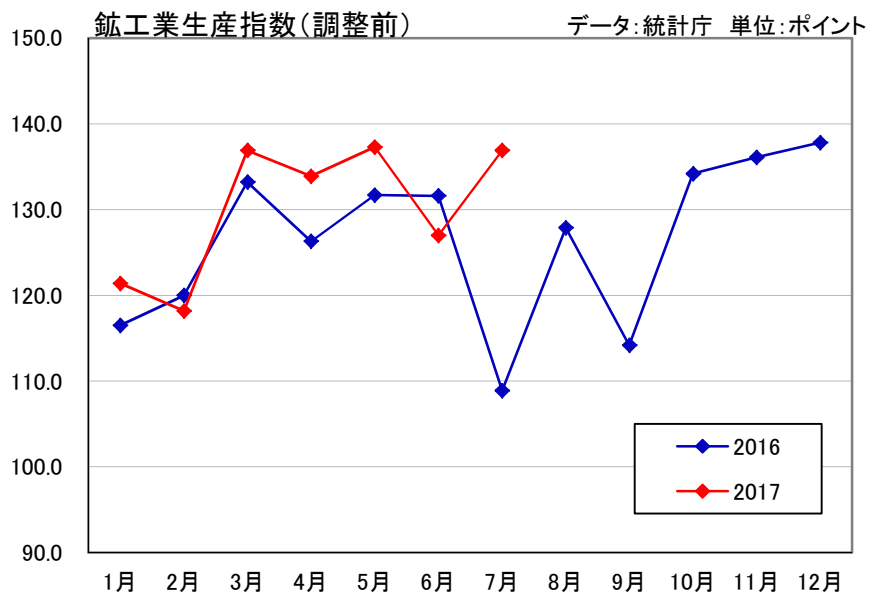
(3) なお、日本からの旅行者は4,741人(前年同月比26.8%増)となった。



## 鉱工業生産指数(7月)

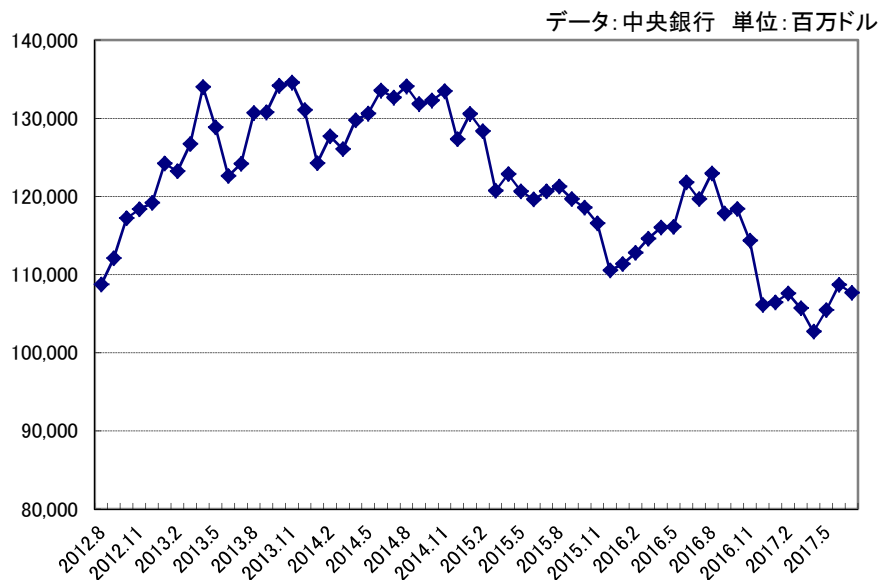
(1) 2017年7月期の鉱工業生産指数(調整前)は136.9ポイント(2010年=100)となり、日数調整後の前年同月比は14.5%の上昇、季節及び日数調整後の前月比は2.3%の上昇。

(2) 分野別では、エネルギーが前月比3.7%増、中間財が同2.7%増となっている。



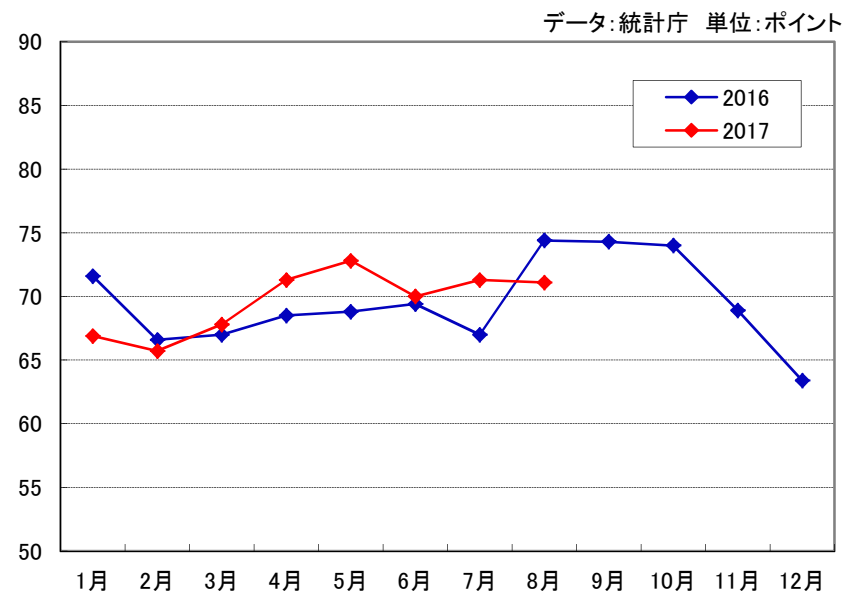
## 外貨準備高(8月)

(1)2017年8月時点での中央銀行の外貨準備高(金を含む)は1,120億ドルとなった。  
 (2)外貨準備高は、2012年の水準まで落ち込んでいたが、8月は昨年11月以来となる1,100億ドル台を回復した。



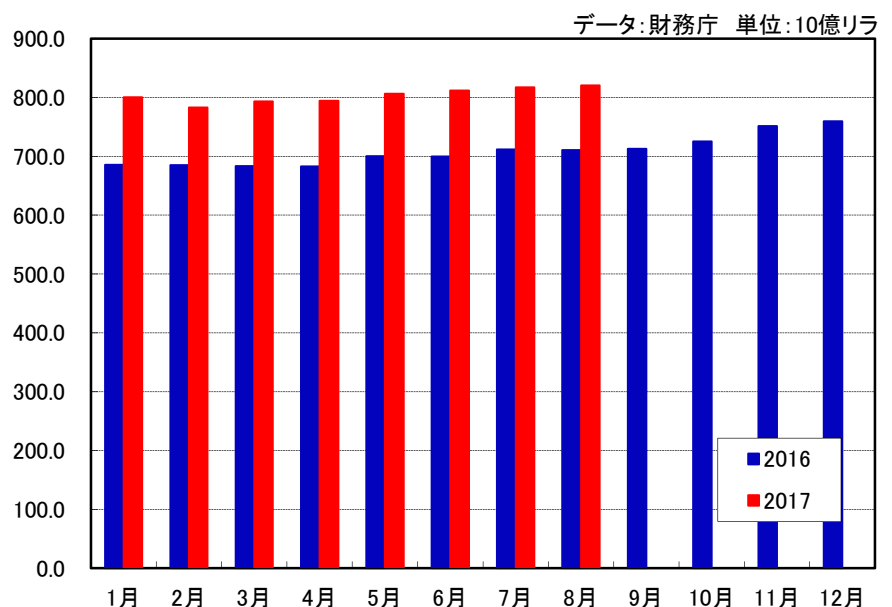
## 消費者信頼感指数(8月)

(1)2017年8月期の消費者信頼感指数は前月の71.3ポイントから0.3%下落し、71.1ポイントとなった。  
 (2)内訳では、一般経済見通しが2.3%上昇し97.9ポイントとなった一方、貯蓄可能性が4.0%減少し22.4ポイントとなった。



## 中央政府債務残高(8月)

(1)2017年8月時点での中央政府債務残高は8,205億リラとなり、前年同期比15.4%増加した。なお、前月比では0.4%の増加となった。  
 (2)また、国内債務比率と自国通貨債務比率は共に62.6%となっている。  
 (3)なお、円建て外債(サムライ債)の発行により、債務残高のうち円は2.5%で、外貨ではドル、ユーロに次ぐ地位を占めている。



※本資料は、当館がトルコ政府発表資料を取り纏めた参考資料であり、当館がその正確性等を保証するものではありません。